

## 「Bさんの道 ～昔の僕は・・・だった。～」

ステップ広場ガル 報告者 三坂 勝則

### 生育暦

1963年生まれ 小学校 中学障害児学級を卒業し工務店などに就職するが、仕事で解らない事があっても上司に聞く事が出来ず、「会社へ毎日怒られに行っていた」というような感じで、人間関係も難しく仕事を転々とする。仕事での失敗は、母親がBさんに代わって謝りに行くなど尻拭いをしてきており、全て他人任せの生活を送る。そのため、本人の中に『責任』と言う概念が抜け落ちたまま育ってしまった。

家庭事情は、両親・妹の4人家族であったが、Bさんを溺愛していた父が11歳の時 他界。母親はしばらく働いていたが、目を患ってからは職に就けなくなる。生活保護とBさんの年金だけでは、生活が苦しかった。しかし、何をすることも待つ事の出来ないBさんの要求と母親自身の欲求と生活していく為に、母は借金を抱えてしまう。その上、何度も自宅に取立てが来ては、居留守を使い、声を潜め怯える日々が続く。

そして、母子分離が出来ていない状態の中34歳の時 それまで何でもしてくれていた母が他界。

生活の術も知らないBさんは、キーパーソンを失い耐えることの出来ない心の空洞がぽっかりと開いてしまった。母が亡くなるまで嫌なことは、全部 母親が代替してきた経歴から前施設入所後 Bさんは、人間関係で嫌な事があれば完全無視か ひたすら泣き崩れる。

どうしても我慢できない時は、誰にも何も告げずその場から逃げだし、いなくなってしまう。施設職員・市職員・警察に保護されては、施設へ戻ることを幾度となく繰返していた。さらに、当時、身元引受人だった妹さんからは、絶縁を言い渡され、ますます不安でいっぱいになっていた。

このような事を繰り返し更生相談所からも、さじを投げられていたようで、警察の間でBさんは、有名人だったようです。

### ガルに来た時 現実逃避

そして、2000年6月24日 市職員に保護されたBさんは、「前施設に だいたい迷惑をかけたので戻れないし戻りたくない」とガルのショートステイを利用する事となるが、3日後には、行方不明。

この時は、「もう どうなっても いい」と思いながら 彷徨っていたようです。

その1ヶ月半後、再び市職員に保護されガルのショートステイの利用となるが、その日も、周りからの質問は、無視した状態で泣き崩れたままでした。

### ショートステイ利用中 嫌な事は逃げたい

普段のBさんは、やや数字に弱いものの冗談も通じるし言葉の概念もしっかりあります。日中活動は、自ら「農芸班に入りたい」と意思表示され 水やりや畑を耕すなどの作業をこなしていた。食事前は、配膳を手伝い 朝食後には、リビングの掃除・モップ掛けをするなど誰よりもがんばっていた。

この姿のBさんしか見ていない職員は、彼の何処に障害があるのか 何故ここにいるのか

不思議に思うほどで、初めて来たバイトさん・ボランティアさんが、B さんを見ると“ガルの職員”に見えたほどです。

しかし、ここガルでも 嫌な事や何時まで居れるかという不安があり、窓から無断外出をして、外食とおやつ代で持っているお金が無くなれば、ガルへ戻るか 誰かに保護され連れ戻されては、居室で何日か こもる。そして、何度も職員が声をかけ 重たい足取りながらも居室から出てきてようやく食事を摂るか、どうしても出てこない時は居室へ食事を運んで食べてもらう日もありました。そうかと思うと“昨日まで引きこもっていたのは、誰？ 何かあったの？”と別人のように、みんなと過ごしている時もあります。

### **入所後 間もない頃 嫌だけれど ~ やっぱり嫌だ**

ガルでの生活も約1年の月日が流れ、こういった精神的に不安定な事、年金だけの低収入、身寄りの無い事を考慮にいれ、まず住む所の安定と精神的安定の為に2001年5月1日 正式入所となる。

ただし、入所する際、市・ガル・B さんの交わした約束の中には、 利用料を支払う為と無駄遣いをしないよう 通帳 印鑑 療育手帳はガルが預かること。

無断外出・失踪すれば退所とする。

この時、B さんの心の中では、“ガルに居たい”と思い始めていたようで、ガルの最高責任者である施設長と交わした約束は、心に響き、本人にとって大きな意味をもちました。

B さんにしてみれば初めての契約で、今の言動や行動が今後どのようになるか、その時点で先のことを考えなければならず、今までのように “嫌やし ここから逃げよう！”では済まなくなる。では、どうするか 悩んだあげく 失踪できない。

その代わり、ストレスが溜まっても失踪こそしないが、持っているお金でおやつや食事をコンビニ・スーパーで買い、戻ってきては 蒲団を頭まで被ってこもり続ける。

定期薬の服用もあり、職員が食事と薬を持っていくと空いた心の隙間を埋める為、職員に「少しでもいいから 話を聞いて」と言い、そばに行けば行ったで 今度は話をせず、何時間も引き止め ただ時間だけが過ぎる日々が続く。そして、特定職員を居室へ呼び 拘り続けていた。

それと同時に「めまいがする」「頭が痛い」「お腹が痛い」「腰が痛い」「歯が痛い」「胸が苦しい」「いらいらする」と薬を要求し 日に日に薬への依存が高くなってきました。また、トイレへ行きたくなるが、職員と会いたくなく、居室内で瓶の中に排尿していました。

この間は、何を言っても 食事を運びに行っても B さんの心には、届きませんでした。しかし、何日か こもっては “何かあったん？”というような顔で居室から出てくるのは、変わりませんでした。

初めのうちは、「薬ばかり飲むのは、よくないよ」「ご飯は、ちゃんと食べや！」と普段の B さんを見ていると 出来るのに ちゃんとできないと職員側は、こもっていた事を攻め すぐに、問いただそうとしていた。この時お小遣い、10,000 円でしたが半月くらいで無くなっていて 出て行きたくてもお金が無く出て行けず 手元にお金が無いのは、“職員が、ガルが取り上げているし”と思い「わしの金じゃ返せ！と壁・扉など壊し わめき散らし 泣いて居室へこもる事を繰返し、無理して出てきているにも関わらず職員の何気ない言葉で傷つけては、再三こもらせ、Bさんと職員の衝突は何度も有りました。

### **入所後の変化 嫌だけれど、がんばりたい~ だけど、嫌だ**

ただ 救いは、こもってばかりではなく、リビングや日中活動に出てきた事です。

日常は、ショートステイ利用者を含めた老若男女を問わないリビングでの食事、日中活動、土日の余暇活動は、仲間と遊びに行ったり、調理実習をしたり、誕生会・運動会・こすもす祭・クリスマス会。それに喧嘩等々色々な事がありました。この中で、Bさんは、人との接し方や距離感を勉強されたのではないかと思います。

欲しい物は、すぐには買わなければ我慢できない時でもあったのですが、計画的にお金を使えるよう施設長から「一年間 15,000 円 / 月でやりくりをして自分で出納帳を合わす。それ以上お金を要求しなければ 通帳と印鑑は返す」と約束をしたことも心の奥底に残っていて Bさんは、出納帳の付け方を習い、何度もくじけるが我慢することも覚えられたと思います。Bさんは、考えた末、“こもったらお金を使わずにすむ”から こもっていたようです。

医療面からは、医師の協力を得て、Bさんが痛みや不安を抱えている時は、少しでも解消出来るよう訴えをそのまま受け止める。必要ならば、すぐに、その時の訴えで頓服を使用する。

定期薬は、デプロメールで 自分でも どうしようもなくしんどいところを薬の力を借りて 精神的緩和をする。居室から出てきた時は、こもっていた事に対し 攻めたり すぐに、問いただしたりせず、時間をかけ 調子のよさそうな時に「あの時は、何で・・・？」と、尋ねるようにして、寄り添ったつもりです。しかし、何日か経つと同じ事で こもってしまう時もあり、常に、不安を抱えている状態でした。後から気づくのですが、失踪こそしないが、苛々している時や充実感不足で気分転換に外出した時は、食事・おやつ 買い物で心の空白を埋めようとしていた。本人にしてみれば、全然強くないのに、なんでも出来るし しっかり しているように見えるからこそ、しんどかったようです。そして、見放されているとされていて もっとこっちを見て欲しい裏返しがこのように出ていた時期であったようで、本人も自分では、どうしようもなく精神的に苦しんでいて、職員もBさんもお互いが、つらい時期でもありました。

### 現在 嫌だけれど、がんばろう~

このような繰り返しだが、現在壁を乗り越える為の一つの力になっている。また、市職員の所へ出向き「こもっても いいやん 風邪ひいたと思ったら」とこもることは 悪くないと肯定された事は Bさんの後ろめたかった気持ちを楽にさせ、こもっている間は、単にこもっているだけではなく 自分を客観視して自分なりに気持ちの整理をつけて 出てくる。そして、この一人でこもれる個室が在ったことが、Bさんには、とてもよかったのでしょ。

母亡き後の空白を埋める為外出や外食に必要であったお金 心の杖であったお金ですが、余暇に使うお金はとっておき、使えるお金は使って 出納帳もきっちり付けられるようになってきた。

今では、通帳 印鑑と療育手帳が本人管理になり 徐々に Bさんの精神的不安定さが安定へと変わってきています。

外へ出なくても ショートステイ併設の棟で いろんな人に揉まれながら本人にもいろんな経験ができてくる事も大きいのではと思います。わからない事や困った事があれば、解決しようというんな職員に聞いて回ったり、初めてガルに来たバイトさんやボランティアさんには、自分から自己紹介をされます。一人で外へ出かける時は、職員に必ず行き先を告げるか何時までに戻ると伝えてから出かける。最近では、過去出場拒否した卓球大会で優勝した。その優勝した事で“やれば 出来る”を実感出来た事も この先 大きな糧となるに違いないと思います。

### 今後 頑張ろう ~自分の力を信じて

今の Bさんの持っている力は、施設の中だけで過ごすには あり余っているようで、しばらく ガルに

生活の拠点を置きつつ 本人が、今まで希望していた一人暮らしも視野に入れて作業所の実習スペシャルオリンピックス(卓球・京都まで)等 外部との交流を深め 自分の存在感を持ってもらう。

もっと先では、 ジョブコーチに付いてもらって就職(アルバイト)も展望にいれ地域での生活を目指せるように、 ガルが本人にとって「ステップひろば」となるよう そして、しんどくなれば ガルがバックアップしてくれるという安心感が持てれば ひとりぼっちではない 何かあれば相談できる人が周りにいて、生きる喜びを感じればと思います。

### 終わりに

入所型施設(ステップ広場ガル)の役割をもう一度考え、私たち職員は、引き出しをいっぱい増やし、その時の目線の高さを考えスキルアップを図り、他のケースも含め次につながればと思います。

表1 Bさんの行動と移り変わり

	卓球大会	コスモス祭り	クリスマス会	日中活動	金銭	購入品
2000年		初年度 なんとなく参加	ホールに来ることなく居室でこもる	農芸	設定したお小遣い以上に使用	
2001年	出場すると言っていたが居室でもり欠場	しばらく いたが中庭に居場所がなく居室へ こもる	ホールへ来るが職員 A が姿を消すと居室へ戻る	農芸 紙すき	入所と同時に通帳印鑑を施設で預かる	TV 冷蔵庫 携帯ラジオ
2002年	B部門 準優勝	紙漉きの実演販売するものの半日で居室へ戻る	ホールへ来てペーパーサート発表直前居室へ戻る	紙すき	一年間決めた金額を守れたら通帳印鑑を本人へ渡すと約束する	VTR CDラジカセ CD ウォークマン
2003年	A部門ベスト8入り	ステージに上がり楽しむ	みんなとペーパーサートをし最後まで参加	紙すき エコ	通帳・印鑑が本人管理になる	
2004年	B部門優勝 本人も周り(ガル)も大喜び			エコ	他金融機関に口座を開設	

表2 ガルの基本的な日課

時間	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
平日	起床	朝食	基本的に自由			日中活動	昼食	日中活動			入浴	夕食	基本的に自由 リビング・居室で TV・VTR (小風呂 入浴もあり発作が無い事)				就寝	
土白休	起床	朝食	基本的に自由			余暇活動 (昼食は棟or外食)			活動			入浴	夕食	基本的に自由 リビング・居室で TV・VTR (小風呂 入浴もあり発作が無い事)				就寝

## 主な活動

### 平日の日中活動 (2004年度現在)

エコ班 ……機織 沙織織り

療育班 ……散歩 リズム体操 ドライブ

コスモス班 ……(野菜・花作り)・散歩・雨天時は体操やビデオ等施設内で活動(旧呼び方は、農芸班)

紙すき班 ……紙漉き 買い物 等

3B体操・書道・プール・通院 等

### 休日の余暇活動 (天候やショートステイ利用者により変更する時也有)

誕生会・調理実習・散歩・こすもす祭・クリスマス会・地元運動会参加・ドライブ・電車 バスで外出・理髪店・映画・カラオケ・レストラン等外食・BBQ・そり遊び・ルミナリエ・初詣・琵琶湖開き 等他